# 松明づくり手順

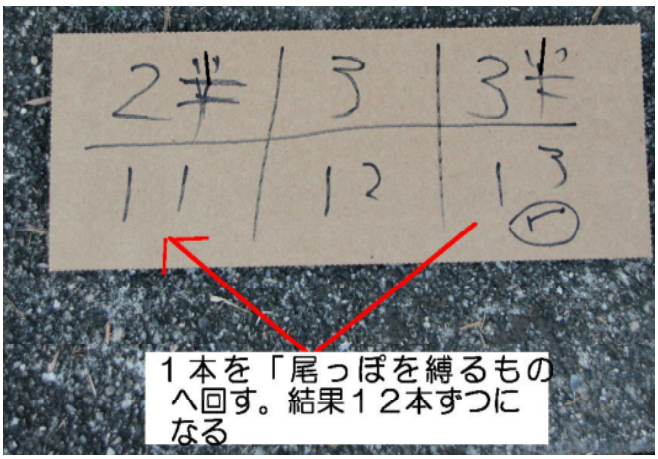
荒縄を両手間隔を１広として
　「２広半」の長さと「３広」「３広半」を
それぞれ往復させ１１本、１２本、１３本をとる

| | | |
|---|---|---|
| ２広半 | ３広 | ３広半 |
| １１本 | １２本 | １３本 |

２広半

３広

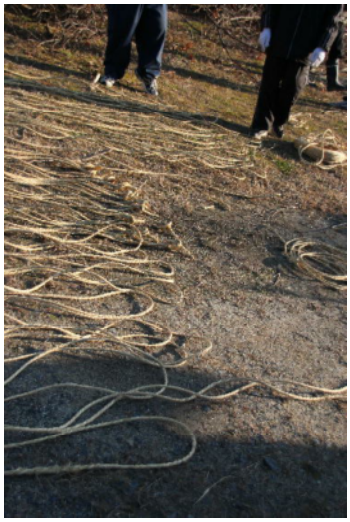
３広半



片方が輪になるよう、もう一方を切る

切った方を輪に合わせて軽く結んで見分けがつくようにしておく。

３広半の１本を２広半の２本目に置く



竹を３本揃える。下竹は昨年使用の古い竹を利用する。背竹は今年の新しいものを使う。
長さは５ｍとする。

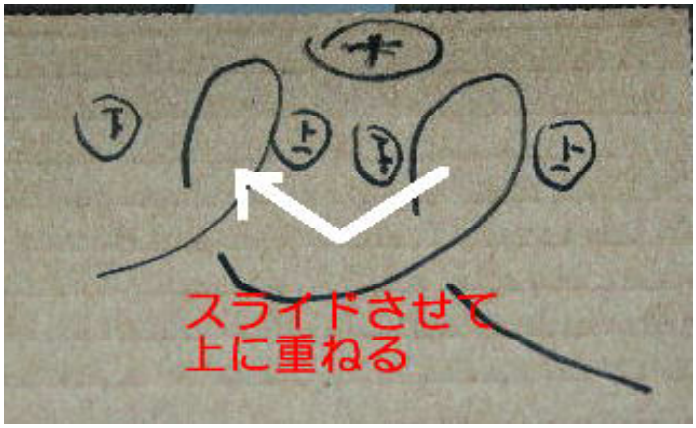
下竹を２本逆ハの字に並べ、縄を巻き付けていく。どちらの縄も頭部に向けて前巻きを１回する。

縄の端を揃える

２本目はとっくり結びで縄を掛ける

トックリ結び
「右の輪をスライドさせて上に重ねる」

トックリ結びは丸い物などに巻き付け、荷がかかるような横棒をつるすときなどに使うことが多く、便利な結び方です。

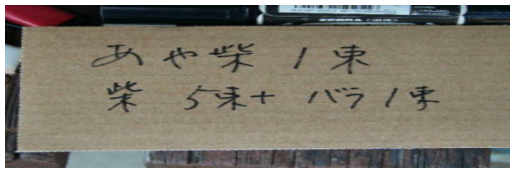


どちらの輪とも頭部側に巻き、長さを揃えて横に広げる。

頭部に向かって巻き上げていく。

３広半の最後１本手前は大黒さん固定用のため
トックリ結びで結う

縄を巻き上げ終わったら、２本の竹に間隔よく巻いてあるか確認した上で次に進む。
次の工程は柴を置く。



尾の位置に綾柴を左右に広げ、交差部を縄でくくる。

綾柴１束を底部２本の竹より外へ広げて置く。縄で絞めたときに内部の柴がむき出しにならないように飾りになるので、均等に置くようにする。

５束の柴を底部２本の竹に沿って置く。

飛び出るような枝や株元は切り取り、形を整えるできるだけ、下竹より２～３ｍくらい出すようにすると仕上がりが整う。

背竹を置き、下竹と合わせる。

あらかじめ揃えておいた縄を両側からたぐるよせ、頭に向かって右縄を竹に上から前に巻き、左縄を逆に後ろに巻き付ける。

これを「右前」と覚えておきたい。

頭部まで仮締めをする。
綱を引っ張りながら、ある程度足等で蹴り押さえ縄を絞める。
締めた物をゆるまさないで４本を束ねてぞうきんを絞るように堅く巻き、蛇のように巻き付けてこぶの下へ下へ巻き付けていく。

縄が締め付けられないときや、竹に上巻きできないときは背竹下に木を差し込み、浮かして縄を巻き、締めていく。

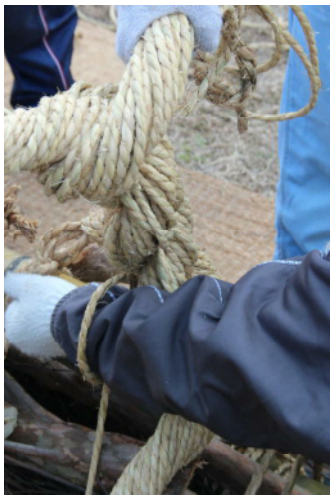
本締めを行う

本締めは男結びで結っていくので、松明結いを行うときは、その結び方を事前に習っておく必要があります。

男結びは別に掲載します。

otoko-musubi

よだれかけを下から上部に巻き付け、交差したところを頭部から２本目の縄で絞める。大黒を上に載せ、大黒の頭中央に先のとがった細竹を差し込み胴体の柴まで打ち込んでおく。出た部分は頭のワラに合わせて切りそろえておく。



尾っぽの飾りは５広で１２巻きを作る

端に棒を差し、右に巻き絞る。

松明の尾っぽから見て、よだれかけの太い方が右側に来る。松明の頭部背竹の上部によだれかけを廻し結び止める。その上に大黒を載せて竹を打ち込む。大黒についていた結び縄で竹に縛り固定する。前部には別縄で竹と結んで固定する。

２００６年１月作成：佐野兼晴
２０１３年１月編集：浮気松明検討委員会